2019年度　　唐津市立浜崎小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
学び合い　共に遊び　励む　意欲あふれる浜崎っ子の育成 ーやればできる　今日も来てよかった浜崎小学校ー	①　確かな学力づくり（確かな学力と自信を育てる教育の推進） ②　豊かなむこうづくり（人間関係づくりの基盤としての挨拶運動） ③　全教職員が学校経営参画の意識を持ち、学校改善を図る ④　地域に根ざした開かれた学校づくり（保護者・地域との連携を推進し、信頼される学校づくりに努める）

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

①　確かな学力づくり

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進 ・服務規律の保持	・学年の枠を超えて授業を見せ合い、授業力の向上を図る。 ・教職員の服務規律保持の意識を高め、保護者や地域の信頼に応える。	・校内研をとおして、相互参観・相互評価を行い、指導方法と学習環境の改善を図る。 ・学期毎に学力向上アクションプランをPDCAの視点で見直し、継続して成果と課題を明らかにする。 ・職員会議や連絡会で、資料を活用しての指導や職員室掲示により意識化を図る。	B	・学年グループで教材研究を深めながら授業作りに取組み、相互参観・相互評価を行い、授業力向上を図ることができた。 ・学力向上アクションプランに基づいた授業づくりを行い、PW、GW、OWの効果的な進め方を探ることができた。 ・講師を招いてのハラスメント研修を行ったり、個人用の服務ファイルを作成したりするなど服務規律保持の意識化を図ってきたが、さらに徹底していく必要がある。	・今年度の校内研究の進め方を継続しながら、授業力向上に努めていくとともに、それぞれの得意分野についての知識や指導法の交流を行っていく。 ・服務規律の保持に関する研修を、計画的、継続的に行い、自己評価できるようにしていく。
教育活動	●志を高める教育	・自分の夢や目標の実現にむけて、努力しようとする姿勢を高める教育活動の推進	・自分の夢や目標の実現にむけて、努力しようとする気持ちがあると答える児童を70%以上を目指す。	・自分が将来就きたい職業を考えさせたり、調べさせたりする時間を設定する。 ・講師を奨励し、体験的な活動や講演会を実施する。	B	・自分が将来就きたい職業を考えさせ、調べさせる時間を設定して取り組ませることはできたが、個人間に差があり、時間的に十分だったとは言えなかったように感じる ・講師を奨励し、体験的な活動や講演会をすることができなかった点があり、努力しようとする姿勢をつくらせることができなかった。	・個人個人の差を考慮し、ワークシートを細密なものにして、効率よく活動できるようにする。 ・体験的な活動を計画的に取り入れ、講師も奨励していく。
	●学力の向上	・各種調査を活用した実践的な授業改善 ・朝の時間等を活用して、表現力、基礎基本の徹底による児童の学力の向上	・全国・県学習状況調査の分析を行い、そこから課題を明確にして授業改善を行い、全教科・全観点において、県平均以上をめざす。 ・朝のめっちゃタイム等の時間を活用して、条件作文と基礎的な知識理解の深化を図る学習に取り組み、表現力と知識理解の向上を図る。 ・家庭学習内容の充実を図る。	・校内研究を推進し、数学的活動や表現活動を取り入れた授業改善に取り組む。 ・学習状況調査の分析を行い、各学年における授業改善のポイントと取り組みを明確にする。 ・週2回のめっちゃタイムの徹底と充実を図るため、条件作文の課題集と学習プリントを準備し、最外職員も採点や補充学習を支援する体制を作る。 ・県からの配付物や本校作成の学年に応じた家庭学習内容例を配布し、家庭学習の充実を図る。	C	・佐賀県学習状況調査（12月調査）において、殆どの教科・領域において県平均を上回ることができたが、個人の正答率をみると、個別指導が必要な児童もみられる。 ・「めっちゃタイム」に全校で取り組んだことで、計算や漢字の読み書きは、定着している児童が多い。また、条件作文にも継続して取り組んだ成果で、県調査の記述式問題における無回答は、県全体よりも少ない。 ・家庭学習は学年の学習内容や児童の実態に応じて、家庭で「学年×10＋10」分間学習できる程度を出し、担任が点検を行っている。	・学習状況調査の結果分析を各担任が行う時間を設定し、学級の成果と課題を把握させる。習得が不十分な内容は、授業や家庭学習で児童に復習をさせる。 ・その日に学習した内容を家庭で復習している児童は、4月よりも正答率が高くなっている傾向にある。学年で家庭学習の内容ややり方を検討し、学年全体の児童に学習内容が定着するように する。 ・新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価を行うために、職員の研修会を設ける。
	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣、学習習慣の育成 ・家庭との連携	・あいさつ、ことばづかい、時間励行の定着を図る。 ・人の話をよく聞く態度の定着を図る。 ・立腰教育を推進する。	・元気のよいあいさつをする、始まりの時間を守る、教師や友達の話をよく聞くの3点のについて、目標設定と反省を行う。 ・絵型、読型、立腰の掲示を行う。 ・連絡帳の活用と毎週の学級通信で家庭との連携を強化する。	B	・生活点検表で毎日自己評価させ、意識して取り組めるようになってきた。特に挨拶や始まりの時間をすることはできるようになってきた。話をよく聞くことや正しい言葉遣いについては個人差があり、今後も継続して指導が必要である。 ・どの項目も、教師からの声かけがあるとすらが、まだ自主的ではない。	・言葉遣いは「さん・君」をつけて、最後まできちんと話すように繰り返し指導する。 ・話を聞く姿勢や、最後まで話を聞いて質問するなどの約束事を繰り返し指導する。 ・日頃から校内放送をしっかり聞く姿勢を身に付けさせる。内容を問うことで、聞くことの大切さを意識させる。 ・帰りの会での生活の振り返りを通して、挨拶や正しい言葉遣い、チャイム席などが自主的にできるよう促す。

②　豊かな心づくり

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権同和教育の推進 ・教育相談機関との連携	・年間指導計画や児童の実態に即した道徳の授業を実施する。また、参観日に1度は授業を公開し、保護者の道徳教育への理解を深める。 ・相手のことを思いやる仲間づくり、学級づくりをする。 ・教育相談の充実と活用。	・資料の選択、活用を吟味し、体験活動との関連を図りながら授業を展開していく。 ・年3回、「いのち」「なかま」「共生」の視点でぽかぽかタイムの授業を行う。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り、よりよい対応に努める。 ・児童へのアンケートとQ－Uテストをもとに必要な児童との個人面談を行う。	B	・ぽかぽかタイムでは、各学年でもれそれ学習活動を工夫し、実践することができた。さらに、学年集会を開いて交流し、考えを深めることができた。 ・道徳の授業を全クラス参観日に1度は公開し、学校の取り組みへの理解を得るようにした。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り、昼休みには児童が直接相談できるようにするなど、よりよい対応ができた。 ・児童へのアンケートとQ－Uテストをもとに、気になる児童との面談ができた。	・今年度は、ぽかぽかタイムの後に学年集会を開いたり、全学年の感想を掲示したりと、一歩前進することができた。保護者へも取り組みを紹介し、家庭でも一緒に考える場を確保する学年もあったので、その取り組みをさらに広げていきたい。 ・スクールカウンセラーからの提案で2学期から昼休みに児童が、SCに直接相談できる時間を設けた。毎回相談者があり、継続して相談する児童もいるので、今後も続けていきたい。
	●いじめの問題への対応	・いじめのない学校づくり	・互いを認め合う仲間意識の醸成 ・児童個々と学級のわずかな変化も見逃さない教師の意識と指導力の向上を図る。	・県および校内のいじめアンケートを計画的に行い、、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。 ・教師間、保護者と教師の情報共有と指導の徹底を行う。 ・長期休業中に職員研修を行い、職員の意識向上と指導力の向上に取り組む。	B	・県および校内のいじめアンケートを年間計画に組み入れて計画的に行い、、その結果を元に、事後指導を行った。そのことにより、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行うことができた。 ・気になることは積極的に伝え合い、教師間、保護者と教師の情報共有をすることができた。 ・長期休業中に職員研修を行い、職員の意識向上と指導力の向上に取り組むことができた。	・アンケートだけでなく、いじめに気付く感性を児童も教師も磨く必要がある。児童一人一人に出番があり、個性が認められる集団づくりや、教師自身の人権意識を高める校内研修を計画的に実施していく。また、日常的な職員間の連携の推進のため、些細な事でも互いにコミュニケーションを図り、情報の共有化をしていく。 ・校内支援だけでは限界があるケースもある。積極的に外部の関係機関につなぎ、早期解決を目指したい。
	○生徒指導の充実	・望ましい生活行動様式の確立	・「日常生活の基本的行動様式の実践」に基づいて全職員の共通理解による生活指導を行うとともに、「あいさつ」「挨拶」「マナー」の向上のさらに一歩を重点的に行う。 ・あいさつ一番の学校を目指す。	・「あいさつ」「挨拶」「マナー」の具体的な向上目標を学期ごとに決めて、委員会活動での取り組みを中心に、児童の自主的な活動を通して徹底を図る。 ・生活委員会で月のはじめと終わりに、朝のあいさつ運動を実施する。 ・学期に1回、年3回の100点生活を載手で取り組む。	C	・委員会活動では、月に1回の点検（あいさつ・スリッパ・廊下のとおり方等）を通して全校に呼びかけることができた。点検予告の放送と結果報告の放送が充実していた。 ・学期に1回の「100点生活」（6月・11月・2月）への取り組みは、学期1回の生活だけで浸透してきている。	・「あいさつ」「挨拶」「マナー」の向上をめざし、全校での共通理解と共に、学年に応じた取り組みを、年間を通して計画的に進めていく。 ・学期ごとの「100点生活」のアンケートを継続し、家庭への啓蒙に努める。
	○児童活動の推進	・児童の自主活動の推進 ・異年齢での仲間づくりの推進	・自発的な活動を通して、自分たちの学校生活をさらに豊かにする。	・学級活動を通して、自治的・実践的な態度を育成する。 ・委員会活動を当番のみでなく、自主的に企画・運営することを目指す。 ・代表委員会で、自分たちの生活を豊かにする議題を考えて活動する。 ・異年齢集団づくりをすすめるため、高学年でのリーダーの育成を行う。	B	・委員会活動では、昨年より改善を行いながら、より充実した活動ができるように考えた。仕事を細分化し活動を行いやすくしたので、各委員会で活動内容がはっきりし、実践に生かすことができた。 ・異年齢集団作りの浜っ子タイムでは、低学年が喜んで参加できるように、高学年がリードしながら工夫して活動することができた。 ・代表委員会の運営の仕方や、会の進め方などを再検討し、時短しながらもより充実した話し合いができるようにしたい。	・委員会が精選され、活動がしやすくなったのだが、人数が増えたために、個々の活躍の場が制限された。来年度は、さらに自主的に活動を行い、生き生きとした学校にする為にも、学期ごとの反省をしっかりと行い、計画的に指導を行う必要がある。さらに、全校の皆にも、委員会活動の内容を知ってもらうために、掲示板や放送などの活用の工夫をしていきたい。 ・第3回代表委員会のテーマ決めに当たって、議題箱を作るなど、皆の意見を取り入れられるような手立てを考えていきたい。
	○要支援児童対応	・要支援児童への適切な対応	・要支援児童への対応力の向上と校内支援体制の充実を図る。	・生活打ち合わせ会等の機会を活用して情報交換を行う。 ・児童理解研修会で支援対象児を明確にし、校内支援委員会につなげ、当該児童、担任への支援を行う。学習や生活に課題を抱える児童には、教育相談や保健部、生徒指導と連携し、支援チームを作って対応する。 ・支援のための校内研修を行い、職員のスキルアップを図る。	B	・教室で実践できる校内研修会を持ち、教師の支援力が高まった。児童理解研修会の持ち方を工夫したり、生活打ち合わせ会でも課題を抱えた児童について出し合ったりすることで情報を共有し、児童カルテを作成し、次年度の支援に繋げることができた。 ・校種変を行い、個々の児童の特性を踏まえて支援に生かすことができた。 ・特に課題の大きな児童については、学級担任の他、管理職、主幹教諭や養護教諭等の教師集団に加え、SSWや巡回相談など外部の協力を受けつつ支援チームを作って対応することで、保護者の理解を得て少しずつ良い方向に進んできたが、解決の困難な児童もおり、さらに積極的に外部の力も借りて解決を目指す必要がある。	・特別支援に関する研修会を計画的に開いたり、教室での支援に生かせる支援グッズを準備したり紹介したりして、教師の支援力アップを図る。 ・引き続き個人カルテを作成し、支援に役立てていく。 ・外部の支援機関に積極的に相談し、課題解決に向けた協力を受ける。

③　全教職員が学校経営参画の意識を持ち、学校改善を図る

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・規範意識、モラルの高揚 ・業務効率化の推進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合う時間を確保する。 ・各担当業務の情報共有を強化する。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に行う。 ・業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、職員間のフォロー体制を強化する。	B	・業務軽減に向け、各部会や学年部会で学校行事等の内容のうち「無くせるもの」「簡素化・効率化できるもの」を検討し、来年度の年間行事計画に反映させた。 ・職員会議資料の配布を前日までに行い、全員が事前に目を通しておくことで会議の進行を効率化することができた。 ・各部会で話し合った内容を、確実に会議や連絡会等で伝えるとともに、各業務における関係職員が日常的に情報交換を行うなど、円滑な業務遂行への意識化を図ることができた。	・職員会議の議題内容を精選し、連絡会に回すなどして会議時間や回数を減らすことで、教職員が児童と向き合う時間の確保を図る。 ・風通しの良い職場にするために、引き続き職員間の日常的な情報交換を大切にし、それぞれの業務の進捗等の情報共有を強化していく。

④　地域に根ざした、開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校の情報公開 ・保護者、地域との連携	・学校便りの発行、学校HPとはなまる連絡帳の充実と適宜更新を行い、学校教育の情報を積極的に公開する。 ・PTAや地域団体と連携を図り、保護者や地域の人々をGTとして積極的な学校教育への参画を促す。	・学校や学級便り、学校HP、はなまるメール等での積極的な情報発信を行う。 ・PTAや諸団体、地域の方の協力体制を維持し、児童の学習活動に積極的、計画的に取り入れていく。	B	・学校便り、学級便りを計画的に発行し、情報提供に努めることができた。 ・保護者による学校評価で、学校からの情報提供は約92%がよい・だいたいよいであった。はなまるメール、ホームページでのさらなる情報提供の声もあった。 ・校舎改修等の影響もあり、総合的な学習・生活科等では、地域の方々の協力を得て充実した学習を行った学年もあったが、例年の取組が難しい学年もあった。	・学校便り、学級便り、保健便り、図書館便り、学校HP、はなまるメールを通して、さらに学校情報の提供に努めていく。保護者からの要望がある学校HP、はなまるメールの充実を図る。 ・諸団体、地域の方、保護者の協力体制を今後も維持し、児童の学習活動に積極的、計画的に取り入れていく。
	○危機管理体制の整備	・危機管理体制の整備 ・保護者、地域との連携	・危機管理マニュアルを改訂するとともに、職員や児童に周知し、より実践的なものとする。 ・警察や市教委からの情報、校内でのできごと、保護者の気付きを共有し、重大事故防止に取り組む。 ・保護者のはなまるメール登録95%をめざす。	・各種訓練を反省をもとに、随時危機管理マニュアルを見直していく。 ・児童の安全確保にかかわる情報をメールや便りで提供し、危機意識と子どもへの指導を共有する。 ・各学期ごとにはなまるメールの登録状況を確認し、未登録者への登録を促す。	B	・各種訓練後に必ず反省を行い、よりよいものに見直しを行うことができた。 ・災害等の緊急時に、速やかに情報を発信することができた。 ・学校周辺の交通安全について、便り等を通して注意喚起を促すことができた。 ・ほぼ全ての家庭がはなまるメールへの登録を行っている。未登録の家庭には登録のお願いを継続していく。	・災害時における、スムーズな児童の保護者引渡しについて検討する必要がある。 ・はなまるメールでの情報提供内容を再検討し、保護者が安心できる情報提供に努める。 ・学校周辺の交通安全について、引き続き注意を呼びかけて行く必要がある。 ・生活事故への適切な対応など日常の危機管理を再度確認する必要がある。
教育活動	○小中連携教育の推進	・小中学校・地域との連携	・小中連携3部会（地域学校間交流活動推進部、サークルクラブ活動推進部、ひまわりグループ交流推進部）の活動を推進する。 ・小中学校共通の取組を行い、中学校へのスムーズな移行を図る。	・地域の方の協力のもとに小学5・6年生と中学1年生が合同で21サークルクラブを年4回実施し、児童生徒間の交流を行う。 ・小中交流会を実施し、3部会の話合いを行ったり、授業参観を行ったりすることで各学校職員間の共通理解・相互理解を図る。 ・浜玉中校区「学習の取組み」の共通理解を行い、徹底する。	B	中学校校区で連携を図れるように、定期的に運営委員会をもち、よりよい連携のあり方を話し合っていった。それを踏まえ、中学校区の4小中学校で、互いの授業を参観しあったり、子どもたちの生活や学習などについて協議したりしていった。 ・4校合同のサークルクラブを実施し、子どもたちの交流ができた。	・小中交流会での4部会の話合いの柱を再考する。 ・サークルクラブの講師の方と子どもたちの情報交換をしていく。子どもたちの自主性と講師の方々の専門的な知識や技術を学ぶ機会とのバランスを図っていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	・運動習慣の改善や定着化 ・望ましい生活習慣の形成 ・望ましい食習慣の形成	・昼休みに外遊びが好きな児童を80%以上にする。 ・異年齢集団と関わる場づくりを年間10回以上設定する。 ・全校児童欠席0の日、皆勤賞を増やす。 ・朝食をとって登校する児童の割合を90%以上にする。	・外遊びの奨励や呼びかけを行う。 ・持久走大会に向けてのマラソン週間の実施、夏季休業中の個人水泳指導の実施。 ・浜っ子タイムを活用し、運動遊びを多く取り入れる。 ・早寝、早起き、朝ごはんの習慣化をはかり、欠席を減らす。 ・朝食をとらず登校する児童の保護者に個別に連絡をとる。授業での食育をすすめる。	B	・休み時間の運動場の割り当てなどを見直し、外遊びができるよう環境を整えた。 ・マラソン週間の実施や夏季休業中の個人水泳指導については、充実した活動をすることができた。 ・年に13回の浜っ子タイムを通して、どのグループも楽しい運動遊びを取り入れ活動することができた。 ・早寝、早起き、朝ごはんの習慣化は全体的に図ることができた。 ・全校児童の96%が朝食をとって学校に来ている。昨年の94%から2%伸びている。朝食をとらずに登校する児童への連絡は、担任が主になり、声かけができた。	・前年度の実施を基本とし、家庭へのプリント配布や声かけをしっかりやっていく。 ・学校目標の皆勤日2日を達成できるように、衛生管理の指導を徹底して行う。 ・効果的な活動に向けて、業務の改善を図る。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

○校内研究の算数科を中心に授業力向上に努めることができた。学習状況調査やCRTの結果から、着実に学力が向上してきていることが分かる。来年度も算数科を中心に授業力向上、学力向上に努めていく。
○生活打合わせ会や児童理解研修会で児童についての共通理解をする機会を増やし、支援方法や支援体制の検討や見直しにつなげることができた。来年度も、チームとして支援ができるように、情報交換や支援方法検討の時間を確保していく。
○生活委員会が、月の初めと終わりにあいさつ運動（年間7回）に取り組み、全校に呼びかけることができた。元気にあいさつをしている児童を感の放送で知らせるなどと工夫して取り組み、児童の意識も高まってきている。次年度は、自分から進んであいさつをする児童がもっと増えるように学校全体で取り組んでいく。
○総合的な学習等で、地域の方々の協力を得ることができ、充実した学習を行うことができた。諸団体、地域の方、保護者の協力体制を今後も維持し、児童の学習活動に、積極的、計画的に取り入れていく。
○業務改善・教職員の働き方改革の推進については、今後、校務分掌の見直しや限られた時数条件の中での学校行事、教育活動の精選を行って行く。

●は共通評価項目、○は独自評価項目